

自民改革会議
静岡県議会議員

とう どう よう いち 東堂陽一



の縁もあって実現した視察です。旅団長、副旅団長、幕僚長、業務隊長のトップ4が対応して下さるといふ厚遇もしていただきました。

12旅団は群馬県・栃木県・新潟県・長野県に展開し、防衛警備、災害派遣を任務とするほか、民政協力および国際貢献活動を行っています。約4,000名の人員を擁し、空中機動力を高めた旅団です。女性隊員も何人か見受けました。凛とした制服姿が印象的でした。

12旅団は中越地震やインド洋・スマトラ島大地震、東日本大震災にも出動しています。テレビに映された福島原発の上空からヘリコプターで水を撒く任務はこの部隊が担いました。予想される東海地震の際には、災害救助の為に、掛川を中心とした静岡県西部地域に派遣されることになっています。

どのような計画が作られているのか、どのような装備があるのかを調査する。そのとき議員として何ができるのか、何をしなければならないのか、そして、今何をしておかなければならないかの調査勉強でありました。

震災が起きた時、12旅団から、先ず最初に偵察のヘリコプターが飛んできます。地震発生後約2時間で到着できるそうです。その後人員を乗せた車両部隊が10時間から12時間後に到着し救助活動を始めます。派遣人数は1,000人の予定です。旅団指揮所は磐田市見付の県総合庁舎内に置かれ、その後エコパに移動し、救助部隊が駐屯します。全てはととても書ききれませんが、皆様に詳しくお話を出来る機会を作ればと思っています。

夜は懇親会の場を設けていただき、貴重な体験談を聞いたり、意見交換をさせていただきました。昼間の話と合わせて、東北大震災の任務の過酷さ、行方不明者の捜索の現場の悲惨さ、マスコミ等では報道されない不都合な真実、自衛隊員が見た福島の状況、事故対応から得た福島の教訓など本当に沢山の話を伺いました。

はっきりとは仰りませんでしたが、政府の震災対応（福島原発事故を含む）への不信もあるように感じました。政治が決断できないこと、機能しない対応組織に現場は困惑したそうです。ここでも縦割りの組織のため十分に機能していなかったのです。私たちも教訓とし反省すべき課題です。

今回の訪問を通じて私が印象深かったのは、自衛隊の皆様の人柄です。任務の性格上、上下の区別は厳格で、命令系統もはっきりとしています。しかし意見は本当に自由に言える雰囲気です。皆さん腹藏なく発言をしていました。このことは意外で、私の先入観を変えるものでした。

しかし考えてみれば非常事態下で仕事をなさる皆様にとって、お互いの意思の疎通が一番大事なことであり、それがこの自由に物を言う雰囲気に繋がっているのだと思います。

仕事を離れた皆様の素顔は優しく楽しく、また、本当に市民・国民のことを心配している気持ちが伝わってまいりました。

きついスケジュールではありましたが、大変有意義な訪問をすることができました。第12旅団の皆様と和田議員に感謝を申し上げます。ありがとうございました。（24年5月27日掲載）



第12旅団司令部にて(5月15日 群馬県)